

巻頭言

学長 伊藤文雄

大学が開校された年に刊行された研究紀要も年々内容の充実を見て、今年十周年を迎えたことは誠に喜ばしいことであります。この間それぞれの専門分野で、貴重な論文を発表された諸先生に深甚なる敬意を払うとともに、編集の労をおとり下さった委員の方々に厚く御礼申し上げます。

今年の明るいニュースはノーベル賞で物理と化学のダブル受賞をしたことでした。我が国が将来構想として科学技術立国に照準を合わせている時、まさに弾みをつける出来事でした。科学技術の進展は環境問題や人間と社会に大きな影響をもたらすので、単に自然科学にとどまらず、人文や社会科学も含めた総合的な視点にたった研究が必要になるのは当然だと思います。そして研究者のモラルが大切な問題だと思います。化学賞を贈られた田中耕一さんは飾らない謙虚なお人柄で、出世や損得よりもひたすら研究に没頭することに喜びを感じる人で、日本中の人々に感動と希望を与えてくれました。ただ残念なことに田中さんの画期的な発見が日本で評価されず、アメリカで利用され製品化されたことです。この辺りの事情はくわしくはわかりませんが、日本ではごく狭く深い価値ある研究も全体として見る目がなかったのではないのでしょうか。

教育研究を受けもつ大学は本来に人間社会に役立つ研究を生み出す力をつけ、若い研究者を育てなければなりません。専門以外にも関連する幅広い知識が必要で、これからも本学紀要に優れた論文が掲載され、引用されることを期待してやみません。